

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4076100108		
法人名	有限会社 グループホームほほえみ		
事業所名	グループホーム ほほえみ		
所在地	〒820-0701 福岡県飯塚市長尾928番地6	Tel 0948-72-3734	
自己評価作成日	令和05年10月19日	評価結果確定日	令和05年12月07日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者にほほえみ・家族にほほえみ・地域にほほえみを理念とし、入居者様の意向に寄り添い、少しでも自立した生活が送れるよう、穏やかに過ごしていただく環境を整え日々支援しております。施設の近くには学校・幼稚園・役所・病院・コンビニがあり、暮らしやすい環境です。施設内は共有スペースが広く、開放感があります。地域の方達との交流も頻繁にありましたが、現在はコロナウイルス蔓延の為、出来ていない状態です。入居者様全員参加の焼きそばや、誕生会は行っております。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5番27号	Tel 093-582-0294	
訪問調査日	令和05年11月24日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

公共施設、病院、学校、幼稚園等が近い利便性の良い環境の中で、開設21年目を迎える(2013年3月に新築移転)定員9名のアットホームな雰囲気のグループホームである。自治会に加入し、コロナ禍以前は町内の行事や活動への参加、小・中学校の職場体験の受け入れ、子ども会のハロウィン来訪等、活発に交流していたが現在は自粛している。社長自ら買い出しを行い、職員が手作りする家庭的で美味しい食事は利用者には大変好評で、秋刀魚の炭火焼きや焼き芋、バーベキュー、焼きそば等、屋外の駐車場で「食」を中心とした楽しみを提供し、利用者の笑顔に繋がっている。協力医による往診と夜間、緊急時の対応、訪問看護師、介護職員の連携で安心の医療体制が整っている。社長、管理者、ケアマネージャーを柱に、ベテラン職員がチーム介護に取り組み、理念「入居者にほほえみ・家族にほほえみ・地域にほほえみ」を実践している、グループホーム「ほほえみ」である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	<input type="radio"/>	1. ほほ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	<input type="radio"/>	1. ほほ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	<input type="radio"/>	1. ほほ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	<input type="radio"/>	1. ほほ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	<input type="radio"/>	1. ほほ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほほ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、日常的に戸外へ出かけている (参考項目:51)	<input type="radio"/>	1. ほほ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほほ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	<input type="radio"/>	1. ほほ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほほ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:30)	<input type="radio"/>	1. ほほ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホーム独自の理念を掲示し、入居者様一人一人への笑顔を忘れないように支援している。	理念「入居者にほほえみ・家族にほほえみ・地域にほほえみ」を玄関に掲示し、毎朝の申し送り時に唱和している。「笑顔でね」と職員間で声を掛け合い、利用者も職員も笑顔で楽しく過ごすことができるよう、常に意識しながら理念の実践に取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に入り、美化運動・子供会のハロウィン等地域の方々と交流を深めていたが、現在はコロナ蔓延の折から施設内の訪問はご遠慮頂いている。	コロナ禍以前は、自治会会長、老人会会長、民生委員から地域の情報提供を受け、公民館の行事や地域の祭りに参加したり、小・中学生の体験学習や子ども会のハロウィン交流等行っていたが、現在は自粛している。今年のハロウィンでは、直接の交流は出来なかったが、お菓子をプレゼントして喜ばれた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の産業祭り・文化祭など催し物に参加していたが、現在はコロナで開催されず、広報紙のみ配布している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	以前は地域住民の代表・入居者様家族・市職員の参加で2カ月に1回開催していたが、現在は感染症予防の為、外出を控えている。	コロナ禍の中では書面で会議を行っていたが、新型コロナ「5類」移行に伴い、今年9月から対面での会議を再開している。家族、自治会会長、老人会会長、民生委員、地域包括支援センター職員の参加を得て開催している。ホームの運営や取り組み、利用者の状況、行事について報告し、参加委員から質問や意見、情報提供を受け、サービス向上に活かしている。	専門職を招いてミニ勉強会や会議の中で避難訓練やレクリエーションを体験する等の内容の工夫と、ホームの事だけでなく地域の困りごとについても話し合う開かれた会議運営を期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	毎月介護相談員の方の訪問があったが、コロナで訪問をキャンセルしていた。令和5年8月より取り組んでいる。	管理者は、行政担当窓口でホームの空き状況や事故等の報告、疑問点、困難事例等の相談を行い、連携を図っている。運営推進会議に地域包括支援センター職員が出席して、ホームの現状を伝え、アドバイスや情報提供を受けて協力関係を築いている。介護相談員が2名がコロナ状況を判断しながら、来訪している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内で研修を行い、身体拘束の無いケアを実践している。	身体拘束に関するレジメを作成し、月1回のミーティング時に配布して、説明しながら読み合わせを行い、身体拘束となる具体的な行為の正しい理解に向けて、職員の意識づけを行っている。年4回、身体拘束適正化検討委員会を運営推進会議時に開催している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	数カ月に1回研修を行い、職員全員が気を付けている。1カ月に1回のミーティングで支援している現状を報告し、虐待に繋がらないように確認している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修に参加していたが、現在は行われていないため、冊子を配布し、制度について理解を深める様努力している。実際に成年後見人制度を利用されている入居者様が居り、支援している。	権利擁護や成年後見制度についての資料を基に、内部研修で学ぶ機会を設け、制度に関する理解を深めている。利用者や家族から相談があれば、制度について説明を行い、関係機関を紹介出来る体制を整えている。成年後見制度を活用している利用者があるので、後見人とのやり取りを円滑に行い支援している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時、認知症対応型共同生活介護の目的と提供場所について説明している。不明な点があれば、いつでも連絡して頂くよう促している。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に、家族様に参加して頂く。面会時に苦情・要望をお聞きするよう心掛けている。どなたでも、苦情・意見が言える様、玄関に匿名で投函できる意見箱を設置している。	現在、面会は玄関でビニール越しの状態です15分としているが、平屋であるため、居室の窓越しの面会も可能である。面会後に家族と話す機会を設けて意見や要望を聞いたり、電話で聞き取りを行い、出された意見や要望はホーム運営に反映させている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングで職員からの提案や、意見を聞く機会を設けている。代表が個別面談を設け、皆の前で言いにくい意見を聞くようにしている。	月1回18時から2時間から2時間半、研修を兼ねたミーティングを開催し、活発な話し合いが行われている。事前に会議の議題が示されているので、職員一人ひとりが意見を整理して会議に臨むことができている。毎日の申し送り時に職員間で気付きや心配事を話し合い、日常業務や介護サービスに反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の要望や悩みはいつでも聞き、話し合う機会を設けている。		
13	9	○人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	性別・年齢に関係なく採用している。	職員の募集は、年齢や性別、資格等の制限はなく、人柄や介護に対する考えを優先している。内部の勉強会、外部研修受講、資格取得についても積極的に奨励し、職員が向上心を持って働ける環境を整えている。職員の休憩時間や勤務体制、希望休に柔軟に配慮し、職員が働き易い職場環境を目指している。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	人権学習などに参加し、人権に対する意識を持っている。人権学習で学んだ内容を内部研修で発表し、職員全員で共有している。	人権の外部研修に参加した職員が伝達研修を行い、職員一人ひとりに対して人権に関する意識づけを行っている。利用者の個性や生活習慣を職員が把握し、言葉遣いや対応に注意して、利用者一人ひとりの人権を尊重した介護サービスに取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	グループホーム協議会の研修を受講し、その内容は毎月1回内部研修を行っていたが、現在はコロナの為内部研修を主に実施している。状況が整うときはオンラインを利用して外部研修に参加している。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会の研修に参加し、情報・意見の交換を行っていたが、コロナの為研修が無く、近隣の施設との情報交換を行ってサービスの質の向上に取り組んでいる。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	各職員が入居者様の不安や希望を共有し、より良い信頼関係の構築に努めている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の要望が聞ける機会を設け、ご家族様との信頼関係を築けるよう努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族様の要望や、ご本人様の生活歴をお聞きして、ご本人様が望まれ生活ができるように心掛けている。日常生活において、無理のない動作(台拭き・洗濯物たたみ)等を体調を考慮しながら協力して頂いている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ど本人様が希望される生活ができるように、心掛けている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様が安心して頂けるように、ご家族様の協力を得ながら、生活支援を行うように心掛けている。日常の会話で、ご家族の話などが出たら面会時に伝える様にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	誕生会には催し物、写真撮影など、他の入居者様と折り紙で四季折々のレクリエーションを楽しまれる作品作成、入居者様とのコミュニケーションを図るよう心掛けている。	玄関先でビニール越しという制限はあるものの、友人、知人が家族と一緒に面会に訪れることもある。「ほほえみだより」を奇数月に送付して、利用者の暮らしぶりを家族に伝え、電話や手紙の取り次ぎを行い、利用者が大切にしてきた馴染みの関係が途切れないように支援している。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	1人1人の性格や好み・経験などをお尋ねし、会話や行動が円滑に行えるよう心掛けている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了時に、施設を紹介するなど支援を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様のご家族様から今までの暮らし方や、思い出を話していただき、ご本人様本位の介護を目指し支援するよう努める。	職員は、日常の暮らしの中から利用者の思いや意向を把握し、職員間で情報を共有して日々の介護に反映させている。自己選択、自己決定が困難な利用者には、家族に相談したり職員間で話し合い、職員が利用者に寄り添い優しく話しかけ、利用者の表情や仕草から思いを汲み取る努力をしている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでに経験された出来事等、お話をお聞きしてなじみのある暮らしに近い状態で暮らしていただくよう、施設の中でも経験を生かせるよう支援に努める。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者様が自分で出来る事を維持して頂くよう、見守り支援を行っている。トイレ介助など失われてしまったと思い込んでいる能力をスタッフと考える。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ミーティング時、職員間で話し合い、今後の介護計画について検討する。入居者様やご家族様から希望・要望を伺う。	利用者や家族の意見、要望を聴き取り、カンファレンスやモニタリングの中で検討し、利用者本位の介護計画を3ヶ月毎(訪問リハビリが入っている方は毎月)に作成している。また、利用者の状態変化に合わせ、家族や主治医と話し合い、現状に即した介護計画をその都度作成している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者様の行動や感情の変化があれば記録に残し、以降に相応しい介護に役立てるようにしている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様一人一人の状態に応じて、食事形態を工夫している。看取りの時期が近付いた時は、訪問診療が出来きる協力医がいるため、最後までご本人様・ご家族様に係れるようにしている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地区自治会・民生委員・老人会との情報交換を行い、協力を受けながら支援を行っている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医と常に連絡を取り、急な受診・往診にも対応して頂いており、予防接種の支援を行っている。検査が必要と判断された時は、紹介状を書いたいただき設備が整った医療機関にて受診している。	入居時に利用者や家族の希望を聴いて主治医を決定し、現在、利用者全員、協力医が主治医となっている。月2回の往診と緊急時の対応に加え、訪問看護師とも連携し、24時間安心の医療体制が整っている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日バイタルチェックを行っており、体調の変化があれば、訪問看護師や協力医に相談している。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際は、主治医から診療情報提供書を受け取り、入院先病院へ提出したり早く退院できるように、病院のソーシャルワーカーとの連携をとって支援している。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	まずは入居時にご家族に方針を確認している。重度化・終末期になられたら何度もご家族や医師と話し合いながら、出来るだけ安らげるように職員全員で配慮している。	契約時に、ホームで出来る支援について説明し了承を得ている。利用者や家族に終末期の希望を聴いて、これまで看取りの経験もあるが、終末期は家族の希望で病院に移る利用者も多い。利用者の重度化が進むと、家族や主治医と密に話し合い、方針を確認し、出来るだけ本人や家族の意向に沿えるよう、チームで支援に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応・連絡網などは、見えやすいところに掲示している。緊急事態が発生した際の当事者の心境などを共有し、具体的な連絡方法の再検討や確認・連絡事項の共有を行っている。		
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練・消火器の設置場所・初期消火訓練を行っている。水害時の場合は、消防署の指示を受けて行動できるようにしている。	4月と11月の年2回、日中想定 of 避難訓練を実施し、初期消火、声掛け、避難経路の鍵開け、排煙窓開け、利用者誘導の訓練に取り組んでいる。また、運営推進会議を通じて、地域の方に非常時の協力をお願いしている。非常災害に備えて非常食、飲料水も備蓄している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人権の尊重をもとに、一人ひとり個人の人格を尊重した接遇を心掛けています。日常生活場面で自己決定出来るように働きかけています。入浴や排泄時の支援時には周りに配慮したさりげない声掛けを行っています。	利用者のプライバシーを尊重する介護サービスについて、内部研修で学ぶ機会を設け、言葉遣いや対応に注意して、利用者のプライドや羞恥心に配慮した介護サービスに取り組んでいる。また、利用者の個人情報の取り扱いや職員の守秘義務については、管理者が常に職員に説明し、情報漏洩防止に取り組んでいる。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ケアプラン作成時に入居者様の希望されることや、思いを表す事が出来るように心掛けている。職員との日常会話の中にも本人様の希望を聞き取った時にはなるべく想いに沿えるよう工夫している。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人らしい過ごし方に少しでも近づけるよう、急がせずその人のリズムに合わせる様にしている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2か月に1回訪問理容士さんに来ていただき、散髪を行っている。髭剃り後の仕上げ・爪切りもしています。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様の希望を参考にしながら、嚥下状態の悪い方は、刻み食・ミキサー食で対応している。転倒のリスクが少ない方に、食器の片付けや台拭き等手伝っていただいている。	利用者の嗜好を聴いて、調理上手な職員が手作りの美味しい料理を提供している。秋刀魚の炭火焼きや焼き芋、バーベキュー、焼きそば等を駐車場で、普段と違う「食」を楽しめるように取り組んでいる。利用者の残存能力に応じて食器拭きやテーブル拭きを一緒に行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者様一人一人の状態を考慮し、食事量・水分摂取量を個別に記録し、バランスを考えて支援している。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアの声掛けを行い、介助の必要な方はお手伝いさせて頂いています。また、週に1度訪問歯科診療で健診・口腔ケアを行っています。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者様一人一人の排泄リズムを把握し、トイレにて排泄できるよう支援しています。	利用者が重度化してもトイレでの排泄を基本とし、職員は利用者の排泄パターンや生活習慣を把握し、タイミングを見ながら早めの声掛けやトイレ誘導を行っている。また、夜間も利用者の希望を優先し、可能な限りトイレ誘導を行い、オムツやリハビリパンツの使用軽減に取り組んでいる。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事量・水分摂取量を継続し、運動への声掛けなど気を付けています。また、主治医へ報告し指示や対応をご教示頂いています。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	1人1人の希望やタイミングに合わせるの難しいが、「気持ち良かった、スッキリした。」と言われるように丁寧な支援をしています。	利用者の希望や体調、気分に合わせて入浴支援を行い週2日を基本としている。入浴を拒否する利用者には無理強いせずに、時間をずらしたり曜日を変えたり、清拭や足浴の支援に変更している。入浴は利用者と職員がゆっくり話しが出来る貴重な時間と捉え、コミュニケーションを取りながら、楽しい入浴となるよう取り組んでいる。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜ゆっくり安心して良眠出来るよう、お昼寝は長くないように気を付けています。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬時、名前・日付を大きな声で読み、その方が飲み終わるまで確認しています。また、隔週薬剤師の訪問を受け、指導や説明を受けています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物干し・たたみ、ホームの掃除機掛を職員と一緒に行って頂いている。塗り絵の好きな方は塗り絵に没頭されており、季節ごとの施設内装飾にも参加して頂いている。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナウイルス感染予防の為、外出は出来ないが天気の良い日は、施設内の庭を職員と一緒に散歩する事が唯一の支援となっている。	新型コロナウイルス対策として、外出レクリエーションは自粛している。天気の良い日には、近所の桜の綺麗な所まで歩いて花見に出かけたり、敷地内を散歩する等、戸外に出て気分転換が出来るよう努めている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人様の希望に必要な金額をご家族様に相談し、了解を頂いてから使用できるようにしている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人様が電話を掛けたいと言われた時は、快く支援している。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混雑をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	大きな窓にて解放感があり、空調も設備されている。照明も適度な環境で清潔を心掛けている。	ホーム内には、訪れた子供たちの写真や行事での利用者の笑顔の写真を掲示し、観葉植物を配置して、温かな雰囲気のある共用空間である。利用者が一日の大半を過ごすリビングルームは、広々とした明るい憩いの場所であり、ソファで横になって寛ぐ利用者の姿も見られる。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール内の個人の居場所を設定しており、他にもホール内にはゆったりとしたソファや個人でかけられる椅子を設置している。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、ご家族様の写真や手紙・誕生日カードなどを飾るなどして楽しまれている。	入居前に利用者や家族と話し合い、利用者が大切にしている家具や身の回りの物、家族の写真等を持ち込んで貰い、自宅と違和感のないように配慮し、利用者が安心して穏やかに暮らせる支援に取り組んでいる。また、室内は清掃が行き届き、明るくて居心地の良い居室である。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	1人1人の残存機能を無理なく毎日活用することで、出来なかった事が出来るようになっている。		